

受賞者のご挨拶

株式会社 秋豊ネットライズ
代表取締役会長 今野 邦義 様



このたびは、「中小企業振興表彰」という過分なる栄誉を賜り、心より御礼を申し上げます。

受賞の栄誉と喜びを共に歩んでくださった関係するすべての方々と分かち合いたいと思っております。そして、この受賞を励みとし、社員一同、共に手を携え、知恵を出し合い、より一層、秋田の経済活性化に貢献できるよう新しい時代に向け進んで参る所存でございます。

はじめに、一般貨物自動車運送事業者の我々が異業種である点灯装置開発事業に取り組むまでの経緯をご説明いたします。

弊社の創業は昭和46年でございます。当時は高度経済成長期にあり、生活が豊かになり始めた頃でございました。景気は右肩上がり、全国的に自動車や家電製品が加速的に普及しました。自動車を塩釜港から秋田へ搬入し、そして、県内の販売店へ配送をする事が当時の主な仕事でございました。

自動車は飛ぶように売れ、配送が追い付かない程であり、私も寝る間を惜しんで働き続けました。家に帰る時間は深夜、出社の時間は早朝です。おかげ様で、弊社の社長でもある息子には「僕にはお父さんがいません」と小学生であった頃、作文に書かれてしまいました。働き方改革や運送事業者の2024年問題とは無縁の世情でございました。

そんな賑やかだった昭和という時代が終わります。平成に入りバブル経済の崩壊、そしてインターネットの普及、スマートフォンの登場、さら

に令和においてAIの急速な発達など、想像を超えるスピードで技術革新が進み、社会は今なお進化し続けております。それと並行するように人口減少が加速し、大規模災害も相次ぎ、人々の命を奪う、そのような時代に突入いたしました。

こうした時代背景のもと、令和元年に商標登録された「みちほたる」という点灯装置が誕生いたします。少子高齢化率ワーストワンの秋田県において、トラックドライバーの人手不足は現在も深刻な問題です。運送事業者である我々も新規事業を開拓する必要がありました。

そんな折、この装置の開発者であり、10年ほど前まで国の職員であった弊社の社長から、「雪国秋田発のものづくりをしてみないか？」と提案を受けました。どんなものだと訊ねたところ、「再生可能エネルギーを利用した保安灯で、しかも雪国では邪魔者扱いされている雪が発するエネルギーを活用する」のだと。美しい光で事故や災害から人々の命を守り、私のような高齢者にも優しい光。それは、昭和時代、秋田の田園を舞っていたホタルが発するような光で、秋田の運送屋から皆様へお届けする贈り物として「人と地球に優しい光を創る」という、秋田を思う社長の心が伝わる、熱のこもった説明でした。

ここで、「みちほたる」の機能についてご説明いたします。

使用方法は、冬期間に道路の歩車道分離帯に立っている赤と白のノーポールにスイッチを

入れた「みちほたる」を被せるだけです。後は、薄暮時になると、自動的に点灯を開始します。現在「みちほたる」には、仕様の異なる3タイプがございます。

- ① 吹雪・大雨・霧など視程不良時の事故抑制を目的とし、24時間点滅する高輝度LEDの機能を搭載した「フラッシュ型」
- ② 大規模災害時における初期対応を目的とし、蛍光灯機能とスマートフォン充電機能を搭載した「災害用」
- ③ 津波避難路等への誘導、河川管理施設・公園等の公共施設や通学路の安全確保を目的とし、搭載された人感センサーに反応して照明装置に切り替わる「防犯用」

そして、「みちほたる」開発のコンセプトであり、特許認定にもなった「優しく人々を安全へと導く光」ですが、これは、蓄光剤がコンパウンドされた樹脂製のドーム型キャップが輝くことにより発せられます。この技術は3タイプの共通機能として組み込まれております。

この特許技術を簡単にご説明すると、内蔵されている小型蓄電池のエネルギー使用量を最小限に抑えつつ、最大限のエネルギーを蓄光ドームに与えるというものです。冬場、日照時間が少ない日本海側において、日中蓄電したエネルギーの消費をいかに抑えながら優しい蓄光を力強く輝かすのか、そして、吹雪等の悪天候時の夜間における視認性をいかに確保するか。このメインテーマを解決するカギは冬場邪魔者扱いされている雪にありました。

雪国においては不利と考えられている太陽光発電ですが、「みちほたる」は、太陽光に加え、雪が発するエネルギーも活用したのです。

ソーラーパネルを4面縦貼りにし、地面や山肌に着した雪からの「乱反射」を再生可能エネルギーとして効率的に取り入れました。また、ソーラーパネルに附着した雪を溶かす機能も搭載しているなど、雪国ならではの強みを発揮します。その他、動力源となる蓄電池の状態を最良に保つ技術等が組み込まれております。

これらすべてのシステムは「みちほたる」の頭脳であるCPUによって制御しており、設計者は旧秋田県立脳血管研究センター（現在の秋田県立循環器・脳脊髄センター）において、臨床工学士としてご活躍されておりました先生で「みちほたる」の共同発明者にもなっております。さらに、「みちほたる」の製造は、躯体成形のほか、搭載されている基板もすべて秋田県内の企業のみで仕上げました。

まさにMADE IN AKITA!!

ご協力くださいました皆様に改めまして感謝を申しあげる次第でございます。

最後となりますが、待ったなしの人口減少問題を含む社会問題、年々規模が大きくなっている自然災害に対し、我々は何ができるのか、いま何をすべきなのかを、秋田のため、そして、より良い未来を創造するため、これからも考え続けて参りたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。